

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

アフリカ-日本 障害ダイアログ

ーアフリカのインクルーシブな開発に向けた障害分野での取り組みについて議論ー

国際協力機構（JICA）は、6月2日13時半より、JICA横浜センターにて、DPI日本会議と、アフリカにおけるインクルーシブな開発と障害者の参加をテーマにサイドイベントを開催しました。アフリカからは南アフリカ共和国のドゥベ・アフリカ障害者の10年事務局長および7ヶ国の障害当事者リーダーが参加し、課題や今後の取り組みについて活発な議論が行われました。



「TICADV 障害に関する横浜宣言 2013」を読み上げる南アフリカ共和国のムジ・ンコシ氏

このサイドイベントは、障害者は開発プロセスにおいて重要なリソースであるにもかかわらず、様々なバリアにより参加が阻まれることが多いという問題意識のもと、インクルーシブな開発において不可欠である障害というテーマに焦点を当て、各国の経験を共有し、アフリカ域内の障害分野における今後の政策のあり方について協議するために開催されました。

ドゥベ事務局長は、アフリカの開発に障害者がいかに貢献しているかという視点から講演を行い、アフリカ障害者の10年事務局の活動についても紹介しました。一方、ケニア、ルワンダ、ウガンダ、ジンバブエ、マラウィ、モザンビーク、南アフリカ各国の障害当事者リーダー7名は、それぞれの国の障害者の置かれている状況や課題、施策について発表しました。また、JICAからは、田中理事長が、JICAのビジョンであるインクルーシブでダイナミックな開発の実現のためには障害者の参加が重要であると挨拶し、萱島人間開発部長が、障害者のエンパワメントと開発における障害の視点を主流化するJICAの取り組みについて紹介しました。

会議の終盤には、アフリカ各国の障害当事者リーダーより、1)「アフリカ障害者の十年」事務局の活動推進とアフリカ連合との連携強化、2)ポスト2015を議論する過程への障害者の参加、3)TICADV実施計画への障害者の参加、および4)国連障害者の権利条約の履行推進を提言する「TICADV 障害に関する横浜宣言 2013」が読み上げられ、閉会しました。今回の議論が、今後、各国の政策に反映されていくことが期待されます。JICAはこれからも、各国のニーズに応じ、エンパワメントと主流化の観点から障害者を含むインクルーシブな開発の推進に貢献していきます。

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

■本イベントの登壇者

【講演者】

- ・アンドリュー・クダクワシェ・ドゥベ アフリカ障害者の10年事務局長

【パネリスト】

- ・ケニア国共和 ウォルター・ニヤキンダ キスム障害開発ネットワーク プログラムディレクター
- ・ルワンダ共和国 ルイス・ハビマナ 全国障害者団体連盟 ボランティア・コーディネーター
- ・ウガンダ共和国 ザウェデ・アイダ 全国女性障害者連盟 ユース・リーダー
- ・ジンバブエ共和国 アニー・マリンガ 障害者団体連合 女性及び弱者担当共同委員長
- ・マラウイ共和国 スケダ・ルイス ワールド・ビジョン・マラウイ 財務分析官
- ・モザンビーク共和国 カントール・ポンジャ 青年障害者協会代表
- ・南アフリカ共和国 ペトルス・デ・ウィット レメ-ロス（自助センター）代表

【モデレーター】

- ・立命館大学 生存学研究センター 長瀬修 客員教授